

令和元年度 私立神戸野田高等学校「学校評価表」

A よくできた(5点)

B できた(4点)

C あまりできなかった (2点)

D できなかった(1点)

領域	評価の観点	評価の項目	「実践目標」振り返り	評価	項目平均	観点平均
学校運営	教科指導	教科指導力の向上と工夫	1 生徒の学習状況、習熟状況を踏まえ、指導方法を工夫し学力の向上を図れたか。	3.6	3.36	3.16
			2 教科会議などを中心に体験的・問題解決的な学習指導法を研究し実践できたか。	3.1		
			3 ICT機器を有効に活用し、効率的に授業を展開できたか。	3.5		
			4 アクティブラーニングを授業に取り入れ、学習活動を活性化できたか。	3.3		
		個に応じた学習指導の取り組み	5 特進3コースにおいて、コース別授業は個々の到達度に応じた学習指導を行ったか。	3.3	3.38	
			6 進学総合コースにおいて、系列別選択科目の授業は生徒の興味・関心に応じた学習指導を行ったか。	3.4		
		総合的な学習の時間の取り組み	7 総合的な学習の時間は、生徒の興味・関心を把握し、ニーズにあった学習テーマを設定できたか。	3.6	3.62	
		教育課程の成果と検証	8 特進3コースは進路実現も含めて十分に教育成果を達成できたか。	3.0	3.03	
			9 進学総合コースは進路実現も含めて十分に教育成果を達成できたか。	3.0		
		授業改革の推進	10 21世紀型教育に向けて研究授業や公開授業を実施し、授業交流や研究に取り組めたか。	3.1	3.07	
		教務関係業務の円滑化	11 教務システムの導入により、教務関係の業務の合理化、効率化を図れたか。	2.5	2.47	
生徒指導	生徒指導の共通理解と指導体制の推進	12 生徒指導の申し合わせ事項を職員が共通理解し、温度差のない指導ができたか。	3.1	3.13		
	生徒理解	13 教職員が生徒一人一人の内面理解に努めながら、生徒との人間的な関わりを深め、互いに心の通じ合う人間関係を築けたか。	3.9	3.88		
	教育相談	14 心の問題を抱える生徒に対しスクールカウンセラー、教育相談担当者、養護教諭、場合に応じて対外関係機関と密接な連携をとりつつ対応ができたか。	3.8	3.81		
	いじめ防止対策の推進	15 いじめ防止基本方針に基づいて、未然防止に向けた取り組みや調査等の実施、また組織的な対応ができたか。	3.8	3.84		
	基本的な生活習慣の確立	16 挨拶や服装、遅刻防止、通学マナー等、基本的な生活習慣について適切に指導できたか。	3.4	3.35		
	生徒会の指導	17 生徒会行事を充実させ、生徒の主体的な活動を支援し、指導ができたか。	3.5	3.52		
	部活動の指導	18 部活動を通して心身を鍛えと共に、学校生活を豊かにし、また責任感や連帯感の涵養等の人間的な成長につながるよう指導ができたか。	3.6	3.61		
進路指導	多様化する生徒への進路指導	19 進路指導部と各学年が連携し、組織的に多様な生徒に対して個に応じた指導ができたか。	3.5	3.49		
	進路情報の収集	20 進路についての情報や資料の収集・整備に努め、学年に応じてその活用を図ることができたか。	3.6	3.65		
	進路指導計画の作成と実践	21 3年間を見据えて、進路指導に関する年間計画を作成し、組織的・継続的に進路指導を実施できたか。	3.2	3.21		
	進路結果の分析と対策	22 進路状況・結果について、進路指導部と各学年が連携、分析と検証を行い、その結果を以後の指導に反映できたか。	3.0	3.04		
総務	校内環境の整備	23 安全安心、快適に学校生活が送れるよう校内設備の整備・管理、校内の美化に努められたか。また生徒たちにその意義を理解させたか。	3.6	3.57		
	職場環境の整備	24 職場の設備、備品の整備・管理が適切に行われたか。	3.6	3.46		
		25 職員の健康管理が適切に行われたか。	3.3			
	ICT機器の活用	26 iPadを活用し、職員全体、各部・学年内の情報共有と業務の合理化を図れたか。	3.6	3.59		
		27 校内のICT機器の整備・管理が適切に行われたか。	3.5			
	実践的な安全教育の取り組み	28 大地震等の大災害が発生した場合に、マニュアルに即して迅速・的確に対応できる体制にあったか。	4.2	4.03		
		29 危機管理マニュアルに即して、防災避難訓練が計画的、実効的に行われたか。	4.3			
		30 心肺蘇生法、AED等の応急処置の講習を実施し、緊急時の対策や体制の整備を図ったか。	3.7			
保健指導の充実	31 生徒一人一人の心身の健康状態について、教職員間、家庭、学校医等と連絡をとり、適切な健康管理・保健指導を行えたか。	3.9	3.85			

令和元年度 私立神戸野田高等学校「学校評価表」

A よくできた(5点) B できた(4点) C あまりできなかった (2点) D できなかった(1点)

領域	評価の観点	評価の項目	「実践目標」振り返り	評価	項目平均	観点平均
学 校 運 営	図書館運営	図書館活動の活性	32 廃棄図書、資産図書の分類、また教員や生徒の要望に添った購入等、書籍の管理が適切に行われたか。	3.7	3.59	3.59
			33 「図書館だより」等で良書や推薦図書を紹介し、生徒の読書活動が活発に行われるよう魅力的な図書館作りが推進できたか。	3.5		
	開かれた学校づくり	家庭や地域への情報発信	34 ホームページや配信メール、学年通信等を通して学校からの情報を適宜発信できたか。	3.9	3.87	3.71
		地域との運営・貢献	35 特別活動や生徒会活動等を通して、地域との連帯・地域への貢献ができたか。	3.6	3.63	
		地域や関係機関と連携した安全な学校づくり	36 地域や近隣の学校・関係機関と連携を密にし、不審者情報等を共有できたか。	3.6	3.58	
		学校案内やその他リーフレット等	37 地域や中学生、保護者に対して本校の教育への理解が得られたか。	3.7	3.67	
		オープンスクール	38 地域や中学生、保護者に対して、本校の学校教育への理解が得られたか。	3.8	3.81	
	教職員の資質向上	校内職員研修計画の作成と実施	39 進路指導・生徒指導・教務等、学校の諸課題について校内研修を計画的に立案し、実施できたか。	3.2	3.22	3.11
		教員ICT機器の活用	40 授業や業務上でのICT機器の有効活用や情報収集、研究・発表等を効率的に活用できるよう研修を実施できたか。	3.0	3.00	
	危機管理体制の整備	防災・危機管理マニュアル	41 学校の実情に応じた防災・危機管理マニュアルを作成し、効果的に対応できたか。	4.1	4.12	3.58
家庭・地域との連携		42 家庭・地域・関係機関と連携した危機管理体制を推進できたか。	3.4	3.45		
職員研修		43 危機への対応や生徒の心のケアについて研修できたか。	3.2	3.16		
課 題 教 育	国際理解教育	国際理解教育の推進	44 海外修学旅行や海外提携校への訪問・交流を通して、グローバル感覚を身に付けられたか。	3.7	3.73	3.73
	人権教育、道徳教育	人権教育、道徳教育の推進	45 3年間を見通した人権学習や道徳教育の充実を図り、計画的に実施できたか。	2.9	2.87	2.87
	情報教育	情報教育の推進	46 iPad等情報機器を適切かつ有効に使用すると共に、情報リテラシーや情報モラルを身に付けられるよう指導できたか。	3.3	3.25	3.25
	特別支援教育	特別な配慮を必要とする生徒への支援	47 生徒の実情を把握し具体的な対策を検討して、必要な配慮、支援を行えたか。	3.6	3.64	3.64
	高大連携	高大連携の推進	48 「高大連携」の実現に向けて、具体的な準備作業を行ったか。	2.6	2.61	2.61

〔調査に関して〕

- ① 調査は無記名でお願いします。
  - ② 調査票の1～48の質問について各項目の評価欄にそれぞれの項目の評価をアルファベット(A～D)で答えてください。
  - ③ 調査期間:令和元年11月1日(金)～11月8(金)
- ※ 回答を済ませた調査票は封筒(前面黒板)に入れ、表紙に貼付してある名票の氏名の横に○印をつけてください。

## 令和元年度 学校評価アンケート結果

1 観点別評価順位					
順位	観点	評価	順位	観点	評価
1	国際理解教育	3.7	8	進路指導	3.3
2	開かれた学校づくり	3.7	9	情報教育	3.3
3	総務	3.7	10	教科指導	3.2
4	特別支援教育	3.6	11	教職員の資質向上	3.1
5	生徒指導	3.6	12	人権教育、道徳教育	2.9
6	図書館運営	3.6	13	高大連携	2.6
7	危機管理体制の整備	3.6			

2 評価の高かった評価項目			3 評価の低かった評価項目		
1位	防災・危機管理マニュアル	4.1	37位	教務関係業務の円滑化	2.5
2	実践的な安全教育の取り組み	4.0	36	高大連携	2.6
3	生徒理解	3.9	35	人権教育・道徳教育	2.9
4	家庭や地域への情報発信	3.8	34	教員 ICT 機器の活用	3.0
5	保健指導の充実	3.8	33	教育課程の成果と検証	3.0
6	いじめ防止対策の推進	3.8	32	進路結果の分析と対策	3.0

〈おわりに〉

入試改革に伴う新しい教育の模索や授業改革、また進学校化を進める本校独自の学校改革等、これらを推進していくには膨大なエネルギーと時間が必要である。

昨年度より実施の外部教育関係者を対象とした「21世紀型授業研究会」は、今年度、特に高等学校教員の参加者が目立っていた。若手教員の挑戦の機会として「探究」や「主体的・対話的で深い学び」をテーマに取り組んだ。グループワークやICT機器を活用した新しい授業スタイルが浸透し授業改革に対する意識や取り組みが向上しつつあるが、21世紀型教育への転換に向け、今後の課題や方向性について議論を進めていきたい。

一方、総合的な学習（探究）の時間については、学年毎の課題研究としてSDG'sと自己理解・キャリア教育をテーマに設定し、内容的にも組織的にも大きな前進を見た。今後、本校独自の探究学習確立の土台となることが期待できる。

昨年度の長田区との地域連携協定の締結を受け、生徒会やインターアクト部を中心に地域交流や地域貢献の取り組みが積極的に行われた。特に全校挙げての神戸マラソンボランティアへの参加は教員・生徒にも意識付けの機会となった。地域交流の中で生徒たちが様々なことを学び成長していく機会とするものであるが、まちづくりや地域活性化を支援していく中で探究学習への糸口としていきたい。

様々な改革や取り組みを推進する中、校務の合理化や働き方改革に伴う教職員の労務管理体制の構築を進めているが、働き方改革が本末転倒に陥らないよう実効性のある推進が求められている。